

第二次審査（論文公開審査）結果の要旨

Dietary habits in Japanese patients with palmoplantar pustulosis

日本人掌蹠膿疱症患者の食習慣

日本医科大学大学院医学研究科 皮膚粘膜病態学分野
大学院生 芹澤 直隆

The Journal of Dermatology, volume 48, 2021 掲載予定
DOI: 10.1111/1346-8138.15719

掌蹠膿疱症 (palmoplantar pustulosis : PPP) は手掌足底に無菌性膿疱を呈する慢性皮膚炎である。病変部の表皮細胞で IL-8 の産生が亢進し、TNF- α /IL-23/IL-17 炎症軸の増強が発症に関与する。扁桃炎・歯周囲炎を合併する患者も多い。食習慣は PPP 発症に関わる環境要因の 1 つと考えられるが、今まで PPP 患者の食習慣に関する解析はない。Brief-type self-administered diet history questionnaire (BDHQ) は、日本食に基づく食習慣に関する質問項目で構成される。そこで、申請者らは BDHQ により日本人 PPP 患者の食習慣を調査し、対照群と比較した。

日本医科大学千葉北総病院・付属病院/東京医科大学病院/東京通信病院皮膚科通院中の PPP 患者 72 名(男性 25 名、女性 47 名)を対象とした。対照群は、患者と年齢、性別をマッチさせた 72 名の健常者とした。PPP の重症度は palmoplantar pustulosis area and severity index (PPPASI) で評価した。BDHQ 質問票の回答結果から 1 日の摂取カロリー、各種栄養素・食品摂取量を算出した。PPP 患者と対照群の栄養素・食品摂取量の違いにはウィルコクソン符号付き順位検定を用いた。PPPASI と各変数間の相関はスピアマン順位相関係数で評価した。PPPASI の予測因子は線形多変量回帰分析で、各変数と PPP との関連は二変量多重ロジスティック回帰分析で解析した。

PPP 患者では対照群と比較して body mass index (BMI)、豆類と砂糖/甘味料の摂取量が多く、ビタミン A の摂取量が少なかった。多重ロジスティック回帰分析の結果、BMI、豆類摂取量の増加とビタミン A 摂取量の低下が PPP の発症に関連した。PPP 患者では BMI と Na 摂取量が PPPASI と正の相関を示し、線形回帰分析の結果、BMI と Na 摂取量は PPPASI の予測因子と判定された。

BMI の増加は PPP の発症と PPPASI の増加に関連した。肥満は PPP の発症・悪化因子となる可能性がある。肥満に伴う、脂肪組織からの炎症性アディポカイン (TNF- α , leptin 等) の産生や歯周囲炎・扁桃炎発症の増加は、PPP 発症・重症化に関わる可能性がある。Na 摂

取量は PPPASI の予測因子であることから、Na 摂取量の増加は PPP を悪化させる可能性がある。高 Na 食は T 細胞の Th17 細胞への分化、マクロファージの炎症性 M1 マクロファージへの分化を促進することから、PPP の増悪に以上のような免疫系の影響が示唆された。

第二次審査では、①食品の成分と PPP 発症との関連、②扁桃炎・歯周囲炎が PPP の発症に関与する理由、③PPP の類縁疾患である乾癬での栄養調査の結果との相違、④PPP 患者への具体的な栄養指導法、などに関して質疑がなされ、それぞれに対する的確な回答が得られ、本研究に関する知識を十分に有していることが示された。

本研究は PPP 患者の食習慣を検討した初めての報告であり、その臨床的意義は高いと考えられた。以上より本論文は学位論文として価値あるものと認定した。